

次贈るに物なし。乃ち僅に一行の爲め別宴を張り、數點の贈遺聊か予が謝忱を表し遂に遠く城外に送りて互に別離を惜み、再會を約して袂を分つ。

伊犁、喀喇沙爾間第二回天山の超越は予が這回の旅行中、難關の一に算せしものなり。然るに今や些の故障なく、案外容易に跋涉し得たるものは、一に伊犁將軍の優遇保護ありしに因らずんばあらず。予は茲に記して將軍の厚意を感謝す。

一二、 哈喇沙爾

哈喇沙爾は東經八十七度十四分、北緯四十二度十五分に位置し、北京を距ること實に千五百二十九里餘。城は乾隆二十八年の創築に係りて、城壁高さ一丈三尺、周圍約二百五十四米突、東西二門を設け、城内には焉耆府衙門、參將衙門、電報局等あり。人家約五百戸、内商店大小合せて百餘戸、漢回其の大部を占め、主として吐爾扈特人を華客とす。地形は南部に砂漠礫确の地多きも、西北部は開都河に瀕して、灌漑の便ある爲め、土地豊饒、耕耘に適す。然れども土民一般に懶惰、農を嫌ひ、貧民鼠賊殊に多し。東南は博斯騰淖爾^{ボーステンノール}を控へ、西北は著勒都斯山環繞、廣濶なる高原を形り、大小著勒都斯山は、此の高原を灌漑しつゝ相合ふて開都河と爲り、直に博斯騰淖爾